

令和4年度

看護キャリアセンター報告

新人看護職員育成の取り組み

新人看護職員育成ワーキング

【教育WG】

はじめに

新人看護職員育成ワーキング（以下教育WGとする）は、各部署から1名以上の副看護師長またはリーダークラスの看護師から構成され、看護部教育委員会の下位組織である“教育WG”を兼任し、自施設の教育プログラムを支援する役割を担っている。教育WGメンバーは新人看護職員に対して、看護部教育方針に則り各部署で教育に携わっている。

今年度は2つの目標に沿って活動し、新人看護職員育成への取り組んだので報告する。

【新人看護職員教育目標】

- 日常生活援助の基本的知識、技術、態度を修得し、安全・確実なケアが実践できる
- チームメンバーの一員として部署における役割と責任を果たすことができる
- 社会人、組織人として責任のある行動がとれる

【分散教育 (OJT)】

- 配属部署の特殊性と業務内容を理解し、日常の看護業務が実践できる
- チームメンバーとしての役割を認識し、行動できる

【集合研修 (Off-JT)】

- 看護実践に必要な基本的知識や技術、態度を修得する

【入職時】

社会人、九州大学病院看護部職員の一員であることを理解し、チーム医療の実践に適應する

新採用者
合同研修

看護部新採用者
入職時研修

【看護実践】

看護実践において必要な知識・技術・態度を修得し、看護ケアを安全・正確に実施できる能力を養う

看護実践研修1
(複数領域)

看護実践研修2
(複数領域)

看護実践研修3
(吸引)

看護実践研修4
(口腔ケア)

看護実践研修5
(静脈採血)

スキンケア

看護実践研修6
(尿道留置カテーテル)

看護実践研修7
(静脈注射)

【医療安全】

安全管理の基本的知識、技術を学び、実際の看護ケアに活かす

入職時:医療安全

【感染管理】

感染管理の基本的知識、技術を学び、実際の看護ケアに活かす

入職時:院内感染防止

感染管理1
(手指衛生・PPE)

感染管理2
(針刺し防止)

感染管理
(血流感染防止
CVC挿入介助・
ドレッシング交換)

【フィジカルアセスメント】

意識、呼吸、循環管理に必要な知識を理解し、看護実践に役立てる

フィジカルアセスメント1

フィジカルアセスメント2

【クリティカルケア】

一次救命処置(BLS)の知識・技術を習得し、看護実践に適用する

クリティカルケア1

【シミュレーション】

患者に必要な観察項目を理解し、得られた情報から異常を察知し報告できる能力を習得する

【フォローアップ】

入職後を振り返り、仕事の悩みや不安など情報を共有し、問題解決や今後の目標を考える

1ヵ月

3ヵ月

6ヵ月

12ヵ月

入職2年目

医療安全

がん看護

クリティカルケア2

リフレクション

部署間研修

配属部署や演習では習得が困難な看護技術を部署間研修を通じて経験し、技術習得の補充を行う

入職3年目

感染管理

がん看護

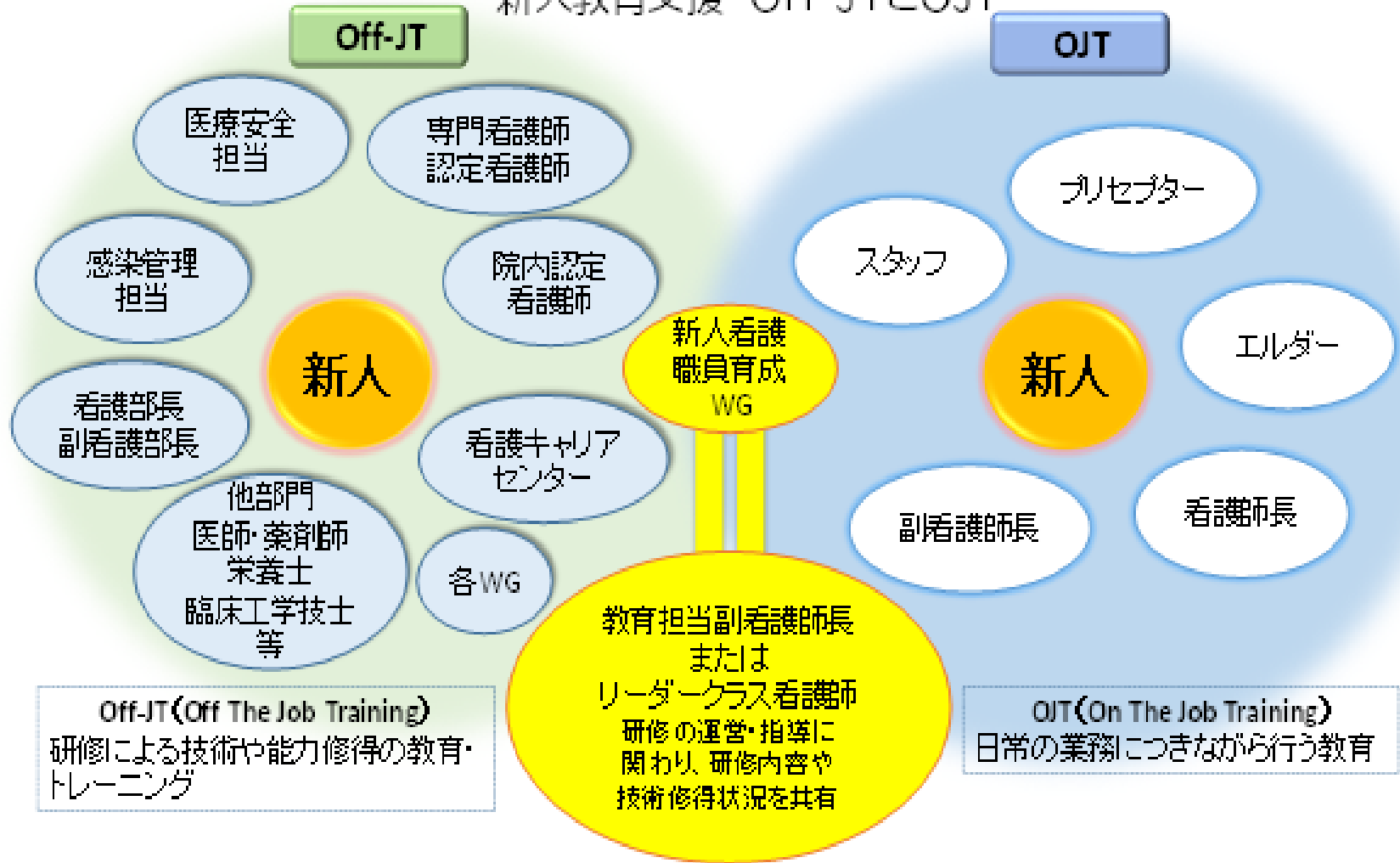
接遇

クリティカルケア3

令和4年度新人看護職員教育プログラム

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
分散教育 (OJT)		看護実践2 ・感染管理 ・血糖測定とインスリン療法		重症度、医療・看護必要度			血流感染防止対策、CVC挿入 介助、ドレッシング交換 フィジカルアセスメント2					(1年以内)輸液ポンプ・シリンジポンプの使用法	
各部署の新人教育計画、新人看護職員の個人目標に沿ってプリセプターを中心に部署全体で新人を指導・育成													
集合研修 (Off-JT) プログラム		看護実践1 ・感染管理 ・看護記録・電算研修 ・輸液管理 ・セルフモニタリング ・接遇	看護実践3 ・フィジカルアセスメント1 ・口鼻腔吸引 ・気管吸引	看護実践4 口腔ケア 3カ月フォローアップ	看護実践5 静脈血採血	看護実践研修6 導尿・尿道留置カテーテル挿入	クリティカルケア研修1 心肺蘇生法・一次救命処置	シミュレーション研修 状況把握 6カ月フォローアップ			看護実践7 (静脈注射認定看護師育成研修)	12カ月フォローアップ	
自己研鑽		研修内容をeラーニング教材で振り返り学習											
		看護実践、シミュレーション・トレーニング											
		ポートフォリオによる学習プログラムの可視化											
看護技術修得度評価	入職1年目	入職時チェック (自己評価)							6カ月チェック (合意評価)	看護技術到達度の確認・分析		12カ月チェック (合意評価)	看護技術到達度の確認・分析
	入職2年目								18カ月チェック (自己評価)	部署間研修		24カ月チェック (自己評価)	

新人教育支援 Off-JTとOJT



教育WGでは、集合研修（Off-JT）とOJTの連動を図るため、研修企画運営や研修内容、看護技術修得状況の共有を実施

令和4年度 教育WGの活動目標

1. 集合研修とOJTの連携を強化し、安全・確実なケアが実践できる新人看護職員を育成する
2. 看護部教育プログラムを支援する

【活動内容】

1. 新人看護職員研修の企画・実施・評価を実施する
2. 新人看護職員が基礎看護技術を修得できるように、看護手順等を見直し、整備する
3. 教育研究推進WGと連携し、臨床看護研究発表会の運営を実施する

教育WGの活動目標

1. 集合研修とOJTの連携を強化し、安全・確実なケアが実践できる新人看護職員を育成する。

【月1回のWG会議内容】

- 研修前は事前学習資料の配布や説明を行い、研修後は受講状況や指導者からOJTで継続して欲しい注意点などをフィードバックした。
- OJTにおける問題点や新人看護職員の集合研修後の看護技術習得状況を確認した。
- 看護技術修得度の一年以内に経験し修得を目指す項目について、その修得状況をデータで示し、明確化し周知した。

教育WGの活動目標

1. 集合研修とOJTの連携を強化し、安全・確実なケアが実践できる新人看護職員を育成する。

【WG構成員からの意見】

- 配布された資料をもとに、集合研修の内容を部署で周知して指導できた。
- 研修後の共有で指導者から意見をもらえたことで、部署で注意することや追加で指導することなど参考になった。
- 個々の性格や看護技術修得度の状況などをプリセプターや教育グループ、副看護師長、看護師長と共有して、個々にあった指導方法を考えることができた。

教育WGの活動目標

2. 看護部教育プログラムを支援する

教育WGが運営する集合研修

1. 研修医研修
 - 1) 採血・静脈注射
2. 新人看護職員研修
 - 1) 輸液管理
 - 2) 静脈血採血
 - 3) シミュレーション研修
 - 4) 静脈注射認定看護師育成研修

OJTで実施した研修

1. 針刺し防止
2. 血糖測定・インスリン療法
3. 重症度、医療・看護必要度
4. CVC挿入介助、CVCドレッシング交換
5. 輸液ポンプ・シリンジポンプの使用法

今回は、CVC挿入介助、CVCドレッシング交換の研修
について紹介する

CVC挿入介助、CVCドレッシング交換

- ◆令和4年度は、安全管理の視点を取り入れ「中心静脈カテーテルの基本的知識」の動画講義を作成し、OJT前に新人看護職員、指導者がそれぞれ視聴した。
- ◆動画講義の主な内容
 - ・ 挿入目的、適応、合併症
 - ・ カテーテルの種類
 - ・ 挿入中の観察点
 - ・ 挿入・抜去時の注意点

CVC挿入介助、CVCドレッシング交換

■新人看護職員からの感想

- 挿入時には無菌操作の実施だけでなく、合併症を理解し、呼吸・循環など全身状態を観察しながら、体位保持、恐怖心や疼痛に対する援助も実施したい。
- 長期管理中の患者さんでは、大血管に挿入されているため、感染管理に注意したい。

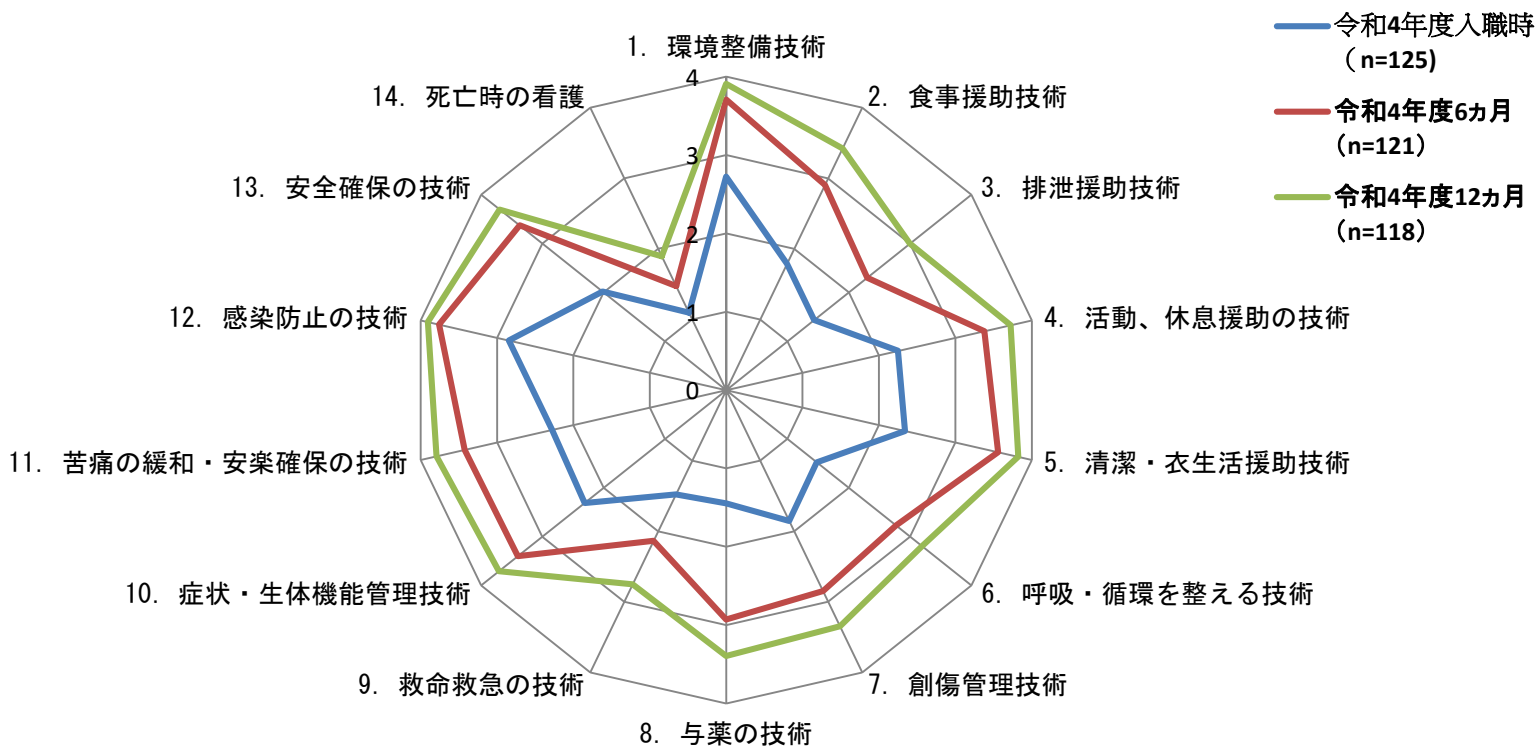
■指導者からの感想

- 実際に演習で新人看護職員に患者役となってもらい、患者の立場を体験することで理解を深めてもらうことができた。

令和4年度 看護技術修得度結果

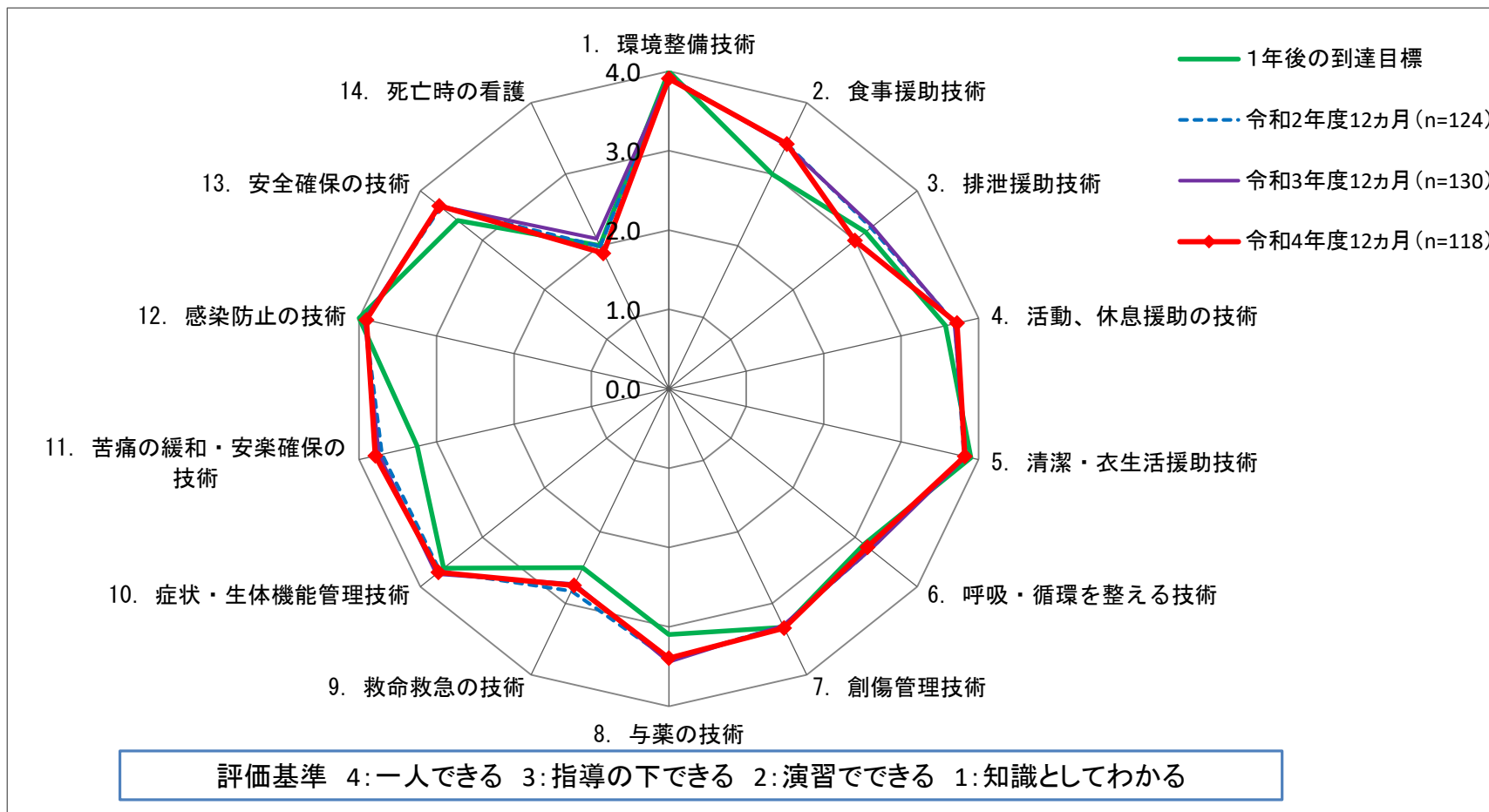
- ・ 新人看護職員に対し、入職時・6ヵ月・12ヵ月・18ヵ月・24ヵ月に調査
- ・ 14領域 100項目について、4段階でプリセプターとの合意評価で点数化

令和4年度新人看護職員 入職1年間の看護技術修得状況の比較



評価基準 4:一人ができる 3:指導の下できる 2:演習でできる 1:知識としてわかる

令和4年度 看護技術修得度結果



3.排泄援助技術は「尿道留置カテーテル研修」の時期が遅くなったため、例年と比較しやや低い平均点となっているが、それ以外の領域では例年通りの修得状況となっている。ほぼ全ての領域において1年後の到達目標を上回ることができた。

まとめ

- ◆今年度も、コロナ禍で臨地実習時間等の短縮により、基礎看護技術の修得の遅れや新人看護職員の不安が強いことが予測された。
- ◆教育WGでは、構成員間の情報共有に力を入れ、集合研修とOJTの連携を強化することができた。
- ◆看護技術修得度調査の結果から、例年通りの修得状況で、かつ到達目標をクリアすることができているため、新人看護職員の育成はできたと考える。
- ◆今後も、安全で質の高い看護が提供できる臨床実践能力を備えた新人看護職員の育成に尽力していきたい。